

## いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会における 環境に配慮した取組（案）について

### 1 基本的な考え方

近年、気候変動や海洋プラスチックごみによる海洋汚染など、世界規模で様々な環境問題が生じており、経済・社会活動に大きな影響を与えています。

これらの問題は、豊かな自然環境を有する本県としても大変重要な課題であることから、県においては、県民との協働による環境にやさしい持続可能なとちぎを目指し、市町との共同による「栃木からのもりさとかわうみ森里川湖プラごみゼロ宣言」の実施など、環境に関する様々な取組を行っているところです。

また、環境問題は、県民一人一人の日常生活にも多大な影響を与えるとともに、その原因の一端を担っているなど、県民にとっても身近な問題であり、取組を進めていくためには行政・関係者だけではなく企業や団体、県民も含めた幅広い参加が必要不可欠です。

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会は、県内外から両大会合計で約80万人が参加する国内最大のスポーツの祭典であり、開催を通じてスポーツによる県民の郷土愛や連帯感の醸成といった県民運動の推進を目指しています。

そこで、両大会における様々な場面を通じ、スポーツの素晴らしさとともに環境というテーマを関係者間の連携と県民の参加により共有し、幅広い取組へとつなげていきたいと考えています。

### 2 両大会における取組内容について

#### (1) 環境に配慮した取組に向けた姿勢のアピール

両大会において環境問題への配慮に取り組むことを参加者で共有し、幅広い関係者の行動を促すきっかけとするため、今後の取組に向けた姿勢をアピールする宣言を行います。

#### (2) 幅広い参加を促進するための情報発信

両大会における環境問題への取組について、県民の機運を醸成し幅広い参加を促進するため、イベントや各種媒体を通じ、積極的に情報を発信していきます。

### (3) 両大会開催時における環境に配慮した取組

県においては、次期環境基本計画に掲げる持続可能性や環境保全といった基本目標を踏まえながら、関係部局によるワーキンググループにおいて、県内の環境に配慮した製品・サービスの積極的活用に向けた検討を進めます。

実施に当たっては、市町や県内企業、関係団体との連携により進めることを目指し、実行委員会など様々な場を通じて協力をお願いしていきます。

## 3 先催県の特徴的な事例

### (1) 福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会（2018）

- ・炬火に水素燃料を使用し、ねんりんピック和歌山（2019）でも採用

### (2) いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会（2019）

- ・スタッフ識別用服飾品に廃プラスチック（ペットボトルペール）を再商品化した生地を使用  
識別用服飾品：ベスト、帽子、Tシャツ

### (3) 三重とこわか大会（全国障害者スポーツ大会：2021）

- ・小型家電リサイクルの取組を環境省が推進する「アフターメダルプロジェクト」として実施
- ・リサイクル金属を使用して金メダルを制作、携帯電話等の分解作業を県内の福祉事業所において行う予定